

現代史特集 日本の性産業と見えない当事者

インタビュー 「買春者」とは誰なのか

# 存在否定の欲望

M男性タカくん  
聞き手：河原 梓水

まえがき

凡例

- 1 子供の頃
- 2 初体験での挫折
- 3 はじめての SM プレイ
- 4 本当に嫌なこと
- 5 女王様との関係
- 6 すべてを放棄したい
- 7 存在の否定
- 8 今後の展開

## まえがき

タカくんは、河原の友人であるサユリさんの（SM クラブに所属する女王様）、数年前からの客である。40 代後半、穏やかだがはきはきとした話しぶりが印象的な男性であった。

タカくんは、これまで SM バー、SM イベントなどの交流の場に行ったことがなく、サユリさん以外の女王様にも会ったことがない。SNS のアカウントは持っているものの、SM とは別の趣味に関するアカウントとして利用しており、オンラインで普及している SM コミュニティの用語や共通の話題については疎い様子がうかがわれた。タカくんは、サユリさんと出会うまでの長い間、SM 雑誌や DVD をひとりで見ただけであり、SM プレイに関係する用語を知ってはいても、その語が示す行為がいかなるものか、はっきりとは理解していなかった。サユリさんと出会って以降は、タカくんの世界はサユリさんとの関係のみで充足しており、そのため彼はこれまで、自身の欲望を他者と比較して相対化したり、同好の人々と SM について語り合ったりといった行為をしてこなかった。むしろ彼は、他

人と接触することで「身バレ」するのではないかと恐れており、当初はインタビューもリスクと考え前向きではなかった。それでもインタビューを承諾してくれたのは、サユリさんによる勧めの力が大きい。

タカくんの語りの特徴として、第一に、自身のマゾヒズムについての分析を求める姿勢がある。インタビューを承諾してくれてからのタカくんは、せっかくの機会だからと、彼自身のマゾヒズムはどのようなものなのか、自分にとってSMプレイとは何なのかについて、研究者である河原に、分析して解き明かしてもらおうと考えたという。インタビューの目的自体はそのようなものではないことは説明したが、このような動機によってタカくんの語りは、河原に自身の分析を求める姿勢となっている。

第二に、タカくんの欲望や実践は、SM コミュニティ内部で言語化され、さらにそれを論評されたり定義されたりするという経緯を経ていないため、その語りはコミュニティで用いられる用語をそれほど使用しないものとなっている。この点は重要である。多くのSM愛好者は、SM コミュニティの用語を知ることによって、自己の欲望をそれらの言葉に基づいて理解し語るようになる。例えば、「自分は女性の体で押さえつけられるのが好きだ」として、それを次第に「私は顔騎や圧迫フェチです」と言い換えるようになる。このような言い換えは、顔騎や圧迫、フェチという用語を獲得する以前に抱かれていた微細なニュアンスを消失させ、「性癖」のカテゴリーに人々の欲望を編成してしまう。その手前で留まっているタカくんの語りは貴重である。

インタビューは2022年9月、タカくんの住む都市のホテルの一室で、約4時間実施した。インタビュー前に、メールでやりとをし、Zoomにて打ち合わせを行なった。さらに、タカくんがこれまでにサユリさんとやり取りした、プレイの要望メールを多数提供してもらったほか、彼の生い立ちにおけるSMとの接点について、彼の思いつく点について書いたエッセイを提供してもらった。これは、サユリさんの勧めに応じて執筆されたものであり、こちらから依頼したものではない。(河原梓水)

## 凡例

——：河原発言部分

斜体：文字起こし確認後のタカくん追記

\*\*：中略

## 1 子供の頃

——初めてSM雑誌を見たとき、絶望されたそうですね。男性が女性をいじめるものばかりだったから。

そう。知らなかったんです。女性が男性をいじめるSMがあるってことを。少なくとも僕の眼には、女王様というものは映らなかった。小学生の頃、近所の本屋さんの片隅にあるエロコーナーの、さらにその奥にある雑誌を、こそっと見るわけですよ<sup>1</sup>。そうするとそこには縛られている女性がいっぱい、緊縛されている女性しかない。その事実にもう絶望(笑)。だから、SMっていうのは男性が女性を責めるもんだって思ったんです。だからもう困ったもんだと。なんてことだと。

——小学生でSM雑誌に出会ったころ、もう「SM」という言葉は知っていましたか？あるいは自分がいわゆる「SM」というものに興味ありそうだと、ということは分かっていたんでしょうか？

SMという単語を知ったのは、雑誌を見てからだと思います。その前の興味っていうのは…テレビの戦隊ものとかに出てくる悪役、なんかものすごい格好。ものすごい化粧した悪役の女性。キャラクターの名前も、なんの番組かも覚えてないですけど。なんだかこう、とんでもないいでたちの。この女性はなんだ！？この格好はなんだ！？と。そこに惹かれましたね。

——初めて女王様雑誌を見たのは、90年代に入ってからですか？

『MISTRESS』<sup>2</sup>なんです。あの表紙にびっくりして。何だこの雑誌！？って。それこそ(女王様が)戦隊ものの悪役みたいな格好してるんですよ。めちゃくちゃ厚化粧で。あれはやっぱりつながったんでしょうね。子供の頃見た悪役と。あれ、買うの恥ずかしかったな(笑)。

買って読んだ時は凄かった。こんな世界があるんだと…衝撃的だった。なにより男でもいいんだ！男が虐められるのはありなんだ！と。『MISRESS』の影響は大きいと思います。だってずっと買ってたもん。てかそれしかなかった。ネットもなにもない時代だったからね。

あとは、ドリフターズかな。ドリフターズのパイ投げ。そして、それはドリフのメンバー

---

<sup>1</sup> タカくんは1970年代半ば生まれのため、1980年代半ば～後半。1980年代、エロ雑誌はゾーニングされておらず、小学生でも立ち読みすることは可能だった。

<sup>2</sup> 1990年、司書房より創刊された「Mマニア専門誌」。

同士がやるんじゃなくて、ゲストの女性がやられる。

——きれいな女性がパイを顔面にくらってぐちゃぐちゃになったのを笑う、みたいなやつですか。

そう。その時はだから女性になっているんですよね、立場としては。でも、ゲストが（逆に）ドリフのメンバーにぽんって（パイ投げを）やるでしょ？ その時のドリフのメンバーには感情移入しなかったですね。面白いですよね。だってSMの女王様が好きなのに（ドリフの男性が）女性にやられる方に感情移入しないで、女性側に感情移入するっていうのは。

——女性側に感情移入するM男性はかなり多いんですよ。ただ、そのパイ投げで言うと、女の人が男にやるものにも感情移入して不思議ではないんですけどね。そこ面白いですね。

当然と思っちゃうのかな？ ドリフのメンバーは芸人で、それが仕事だから。女性のほうはきれいな。アイドルだの女優だの…

——そういうことを本来やらなくてもいいのに、みたいな。

そこの意外性？ うん、それにぐっと来たのかな、子供の頃。

あと実際のところで思うのは、小学校入学してから担任の先生が6年間ずっと女性でした。その後、中一も女性。あの影響はなんかあるのかなと思いますね。教育的指導的立場にある人間は女性っていうのが（刷り込まれた）。先生に叱られている子が羨ましかった。まじめだったんで叱られることがなかったんです(笑)。

——それは、その女の先生に叱られるという行為自体が羨ましいのか、叱られるようなことができる、というその事実が羨ましいのか、どっちの感じでした？

うーん、行為だな。でも今、河原さんが言った通り、自分にはできないってのもありますよね。そっちへの羨ましさもありますね。5、6年の担任は怖かった。厳しい女性。給食残すとか。今ではもう考えられないけど、体罰もありで。教室や廊下に立たせるとか。立たせるとかって最強だよ。だって晒し者にするんだよ。みんなが見てる前で。酷い体罰だね。あれは羨ましかった。

その頃はもう性的なものがありますよね。だからそれは妄想しました。先生に叱られているっていう。現実には真面目なんで、そんなことは絶対できないんですけど。

——タカくんはいい子ね～、見習いなさい！ みたいになっちゃうんですね。

そうそう。だからそれは羨ましかった。とてつもなく羨ましかった。

——同級生の女の子とかとの関係では何かありましたか？

それこそやんちゃな子が好きだった。うん、バシッって叩いてくるような。そういう子となぜか縁がないんだよね。僕の周りに居るのは、なんか大人しい子ばかり。やんちゃな子とお友達になりたかったけど…。その子が同級生の男の子にビンタするのをみた時は羨ましいー！ ってなった。ビンタされた男の子がほんと羨ましかった。そういうのを妄想していましたね。ワルになれないんです。いい子だから。

——どうしていい子だったんですか？

ただ単に性格。生まれつき真面目。先生の言う事にそのままハイ、ハイ、勉強しなさいって言われてハイ、ハイって。そんな感じでした。

——サユリさんへのメールで、抵抗するのを無理やり押さえつけられたいってお書きになってるじゃないですか。それは現実では抵抗する機会もなかった、けどやってみたくてということでもいいんでしょうか？

そうですね。現実にもそのような経験はないです。無理やり何かをされたという経験もないですね。

——大人になってからはなくても、子供の頃、親に怒られたりとかは。

怒られたことはありますけど。そこまでの羞恥、屈辱を感じるほどの叱られ方は…なかったような。

がーって言われたりはありましたよ。ただ屈辱とかは感じなかったですね。だって親でしょ？ 親との関係良好なんでね。つまり、憎まれているとかなら、そのようなトラウマ的なことがあるのかもしれないけど。愛ゆえの？ しつけと理解してました。ガーンと言われたり、バーンと叩かれたりしたこともありましたけど、それに対しては…特に…。だから、親じゃないほうがいい。

——女王様からも、愛がないほうがいいわけですか？

そう。愛はないほうがいい。

## 2 初体験での挫折

——田舎で育ったとのことですが、もし近くに SM クラブがあったら行ってましたか？

そこが微妙で。都会の大学に行って、行ける状況になったんですけど、そこで僕、一度 SM を断念してるんですよ。初体験で失敗して。

あの時はかなり悩みましたね。恥ずかしながら全く（セックスの）知識がなかったんです。好きなら（セックスが）できると思ったんです。相手の女の人のことが好きなら勃起するし、挿入できると思ったんですけど、見事に何も起きない（笑）。ぴくりとも反応がない（笑）。服を着ている時はまだいいんです。着衣の状態で、恋人同士はそこからキスをしますね。その段階はまだなんとかなるんです。なんで脱ぐんですか女性は（笑）。なんで次々と脱いでいくんですか？ 下着を着けている状態なら、まだ…

——性器を見たくない？

いや、見たくなくはないけど、そこはどうでもいい。嫌悪もないんですけど。まず胸が。なぜ（ブラジャーを）外すんだと。

——嫌悪がないんだったら別に出ててもよいのではないですか？

うーん。嫌悪はないけど…でも、せっかく着ているのに、なんで脱ぐんだよという気持ち。そして、全部脱いでスッポンボンになりますよね。そしたら僕のテンションはもうガクッとさがり…もう無理。

——なんでそんなに着ていてほしいんですか？

なんでだろうね。まあ、実際にセックスする以前の問題として、雑誌とか映画とかで裸の女性を見て、同級生たちが興奮しているのがもうまったくわからなかったですね。何が面白いんだと。とにかく着ていてほしい、その頃から。

——着てるものは、雪だるまみたいなももこでもいいんですか？それともそこそ薄着で、ボディラインぐらいはわかった方がいいですか？

雪だるまはだめですね。なんだろう。わがままだね(笑)。…サユリさんの衣装で一番好きなのは、キャットスーツ<sup>3</sup>。だって一番見えないでしょ？

——見えないっていうか、覆われているだけで見えてるようなものだけど…要はボディラインはきっちり見えるけどただ肌が直接見えてないということですね。肌が見えるのが嫌なのかな？

肌に対する嫌悪はないつもりなんだけど、あるのかな実は…僕、サユリさんに、絶対裸にならないで、絶対着衣にしてって言うてるんです。もし強制的に裸を見せられるとどうなるんだろう。それはそれで試してみたいですけどね。

——裸を見せられるイヤさって性的興奮に結びつかなさそうですね。

そう。それで勃つのか、萎えるのか。…さっきの雪だるまみたいな服で言うと、そこになんか、戦隊ものの悪役のような装飾をゴテゴテつけるとするでしょう？棘とか角とか。それなら雪だるまでもいけると思います。その表面がつやつやしていれば。テカテカ素材であれば。

SM の DVD を買う時も、衣装しか見てません。女王様も見てません。ジャケットの女王様がどんな衣装を着ているのか、脱がないか、下着になってないか、ジャケットの衣装のまま全編いってくれる内容なのかを確認します。

——衣装（着衣）が一番大事なんですね。衣装へのこだわりと、あと、事前のメールではプレイの中でのストーリーについても、すごくこだわりがあるということでした。どういふところにこだわりがありますか？

ストーリーがあってくれればそれでいい。合わせられる。

——ストーリー作る時には何かを参考にされてるんですか？いつも設定として、タカくんが子供でサユリ先生が大人で、特に中学校3年生の時が多いみたいなんですけど。

これは全部オリジナル。昔、SM 小説を書いてました。リアルに発散する場所がなかったんで、ずっと書いてて、それがもとですね。その小説が、中学から始まってて、そのまま大人になっていくんです。

---

<sup>3</sup> 全身をぴったりと覆う一体型のワンピース衣装。ラテックス、ライクラ、エナメル、スパンデックスなど様々な素材で作られ、ファスナーで着脱するデザインが一般的。

——なるほど。だからプレイのストーリーも中学から始まって段々成長していくんですね。

そうです。今度お会いする時（のプレイ設定）は、高校3年生ですもん。今後どうなっていくかは頭の中でできているんです。サユリさんに言ってるのは、このまま大学生になり、社会人になり、年を取り、タカくんのストーリーはずっと続いていくんでお願いします、と。永遠に続くのでね。

——なるほど。プレイの設定として、サユリさんとタカくんの、大人と子供みたいな関係性がずっと出てくるので、こだわりなのかなって思ったんですけど、タカくんが成長してサユリさんとの関係性が大人-大人になっても大丈夫なんですか？

大丈夫です。子供-大人関係へのこだわりはないですね。

——もとの小説を書き始めたのも中学3年生ですか？

書き始めたのはもうちょっと遅いです。高校生になってからですね。その時に、中学3年生の設定からスタートして、どんどん大人になって行くんです。相手も年をとって行って。でもそれはもう破棄しました。恥ずかしいんで。もったいなかったですね、今思えば。

——いつぐらいまで書いてたんですか？

初経験まで。

——そこで挫折をして、まずいぞと思って。こんな小説書いてるからダメなんだっていうことになったわけですね。

そう。全部捨てました。所有してた雑誌もビデオも全部捨てて。その後、悪戦苦闘の末に、なんとか成功するんですけど、いかんせん気持ちよくない。おもしろくない。これもやっぱりショックでした。皆さんどうなんでしょう？ できるんですか？ Mでありながら性行為を？

——できる人もいっぱいいますね。いっぱいいます。

僕は全く駄目。初体験失敗後初めて普通のアダルトビデオ観たんですよ。で、なるほど、こうするのかと(笑)。他にも本読んだりして勉強しました。全く興味なかったですから、

それまで観たことも読んだこともなくて。

——じゃあ服を脱ぐことも知らなかったんですか？

いや、それは知っていました。

——じゃあ、その時はまだ、服を脱いでも大丈夫だと思っていたわけですね。

そう。その時はいけると。好きだし、相手への気持ちがあれば勃つんだろうと。でも…トラウマですね。一度駄目だと思ったら、その後も。そのあと何人かとお付き合いしましたがけど…。

女性と話すのは好きなんです。ただ、セックスとなると…。一緒に話してて楽しいだけじゃダメなのかな。でもやっぱりセックスしないと駄目なんですよね。恋人というのは。

——ちなみに、愛がなかったらセックスできるというわけでもないわけですか？

ないです。裸だと駄目。相手に自分の性癖は打ち明けられなかったですね。ぶっちゃけてしまえばよかったのかもしれないけど。それはやっぱり怖かった。大変でした…。本当にセックスは大変。セックスはしたくない。

その時、僕が実践していた策は、やっぱり（セックスの時）女王様を思い浮かべてっていう。でもそうすると、目の前の人はどうなるんだ、と。一体今、何をしてるんだ、と。

——そういうセックスまわりの経験は、タカくんにとっては愛と性欲がもう完全に別物だっていうことを実感するような機会でもあったんですかね？

そうですね。でも本当に悩みました。好きなのに、愛してるのになんでできないのかなって。それはとても歯痒いし、苦しかった。相手にも申し訳ないし。

結婚しようかなと思ったこともあったけど、ダメだなと思いました。この性癖を持って彼女と結婚しては。成功率が低いとはいえ、たまには成功するんで、それで子供をすることもできるけど…。でも…違うな。それはやっぱりダメだな、と思いました。それに向けて頑張ったんですけどね。普通になろうと努力したんですけど…ダメでした。

——何歳ぐらいで諦めたんですか？

35 歳くらい。

—じゃあ、都会時代は一切 SM 系のものから遠ざかってたんですね。

いや、隠れて雑誌とか見ました。買っちゃうんですよね、新刊が出ていると(笑)。でもそれを彼女に見つかったらまずいし、自分自身としてもよろしくないで(すぐ捨てる)。大学卒業後は地元に戻ったんですが、田舎なのでみんな結婚しますよね。同級生たちが次々と。あと親戚。同級生よりも親戚が嫌ですね。お前はまだか、みたいな。つらかったですね。

だから今はね、もう本当に楽なんです。独身で、結婚しなくていいし、無理に女性と付き合うこともないし。ただ当時はまだ、社会的価値観がそうでしたから。僕はそこまで強くなれなくて、もう SM の世界にいくんだ！とは思えなかった。弱かったです。

自分の歩んできた人生に後悔はないですけど、ただ…サユリさんに出会うまでずいぶん回り道でしたね。もっと早く出会うことができた。できたけど、そういう巡り合わせなんですよ。まあ、出会えただけでも、超ラッキー。

### 3 はじめての SM プレイ

—SM クラブに行く前と後の、気持ちの変化を教えてください。

あの頃はそれこそ女性とのお付き合いをやめて、DVD だのネットだの見るだけで満足してました。別にすぐリアルな SM を経験したいとも思わなかった。このまま空想の世界で人生終わってもいい、リアルを知らなくてもいいと思っていたんですけど。ただ…1 回ぐらい…と思ったんですよね、やっぱり。

だって、それこそ普通の人生を歩めなかったわけですよね。まあ普通って言葉は好きじゃないし、普通の人生を送れなかったことに全然問題は感じてないんだけど。ただ、その原因となった、幼い頃からのそれを、1 回ぐらいリアルにやってみてもいいんじゃないかなって。

—SM バーじゃなくて SM クラブを選んだんですね。やっぱりプレイができないといけないですもんね。

そう。プレイがしたかった。

—プレイ後どうでした？

感動ですね。本当に遠回りしたなああって。こんな凄いことが…こんな面白いことがあるん

だなあって。もうひたすら感動。とにかく嬉しかった。長いですもんね…40年。子供の頃からの夢が叶うまで。サユリさんも優しくかったし。

優しくかったっていうのは、SMクラブが初めてで何もわからないってことに対して。

——プレイ内容が優しいという意味ではなくて、ケアが。

そう、ケアが。感動して。その後もハマっちゃって。

初対面の僕に対して、サユリさん側もわからないんですよ。それは当然。だからこっちの羞恥のツボなんかを分かってもらえるまでには時間がかかりました。10回ぐらい行ったあとかな。導いてくれますね。どんなことが恥ずかしいんだ？もっと具体的に言ってくれて。

——考えさせるわけですね。

そう。それでリクエストするっていうのが長く続きました。世界観を作り上げていく作業、そこはやっぱりお互いコミュニケーションを取りながらですよ。だから1回、2回では分からない。当時は僕自身もわからなかったわけですけど。内容全部お任せっていうところに気づくまでも、ものすごく時間がかかりました<sup>4</sup>。ただ、この年齢でよかったなと思います。もっと早く出会ってればという気持ちもありますけど、あんまり若い時でなくてよかったなって思う。

——どうしてですか？

たぶんね、若い時なら、サユリさんを独占したいと思った。若さゆえに。

——どうやって独占するんですか？すべての出勤日に予約をいれるとか？

そうですね。現実的には無理だけど…今は、ブログとかで他の人とのプレイを読んでも、純粋にうれしいなあって感じる…そのご活躍が。でも若かったら嫉妬しちゃってたと思う。あーうらやましい！ って。

——じゃあ、愛があるんですね？ でもプレイじゃないからいいのか。

そこはわかんない。でも大変だと思う。女王様に恋なんてしちゃったら。若くなくてよか

---

<sup>4</sup> タカくんが初めてサユリさんとプレイしたのは2018年のことである。

ったと思う。

——若くなくても恋する人はいますけどね。でもタカくんは自分でストップがかかったと。

ストップがかかるっていうか、そこはお仕事だし。彼女の生き方だし。素晴らしいと思っています。でも若かったら理解できなかったと思う。だから、こっちがある程度人生経験を積んだ後でよかったなど。

\* \*

——いつもプレイ時間は何時間ぐらいなんですか？

最低5時間。基本8時間は欲しい<sup>5</sup>。ストーリーを消化したいから。

——タカくんのプレイ要望メールはすごく理性的ですね。プレイの要望って、たいていはすごく好きな所、こだわりのあるところが何回も重複しちゃったり、文章が全然整理されていない人が多いんですよ。でもタカくんのやつはものすごく、ちゃんと整理されていて。ストーリーやプレイのポイントとか、全部きちんと箇条書きになって書き分けられていたりしているので、最初びっくりしたんですね。書いている時は、結構冷静なんですか？

台詞の部分は、勃ちます。ただ、残りは冷静ですね。

——それは、ちょっと失礼な言い方かもしれませんが、面白いですね。大体の人はすごく性的に興奮して書いていることが多いと思います。そもそもどうしてそんなにストーリーが好きなんですか？

ストーリーが好きと言うのは、DVDの影響だと思っています。ああいうものって、何らかの設定がありますよね。何の設定もなしにいきなりバンとプレイが始まるのはあまりないですよ。

——一度、ストーリー無しのプレイを試してみたい、という希望の回がありましたよね。それはちょっと微妙だったわけですね。

---

<sup>5</sup> SMクラブにおける標準的なプレイ時間は1～2時間であるため、タカくんのプレイ時間は長めと言える。ただ珍しいというほどではなく、SMクラブによっては5時間・8時間をコースとして設定している店もある。

うん、面白かったですけどね。女王様と奴隷という関係がもうストーリーと言ってしまえばそうなんですけど、何でそうなっているのかが欲しい。それがないと気持ちが入らない。女王様側が無理やり奴隷にしているのか、奴隷側がお願いしますと言って奴隷になっているのか、そこのところの背景が見えないとちょっと入り込めないですね。例えば、いきなり土下座しなさいと言われても、どういう状況で土下座しなきゃいけないのか？背景がないと盛り上がらないですね。

——土下座であれば、土下座という行為そのものじゃなくて、土下座に付与された、屈辱とか趣味とか、そういう意味の方が大事だから、それに至る流れが必要だということですかね。

そうですね。必要。

——SM プレイに愛はない方がいいということでしたが、相手は心底タカくんを軽蔑してて、ゴミのように扱っている方がいいと？

その方がいいですね。理想は。現実はそのならないんですけど(笑)。まず、他人じゃないとだめですね。親とか、そういう人からの責めは、あんまり盛り上がらない。やっぱり他人であってほしい。女王様は。

——それはなぜですか？

親とは信頼関係が成り立っているからじゃないですかね。赤の他人ならば、冷酷に、突然裏切るかもしれない。親だと、どんなひどいことされてもその裏には愛があるけど、他人にはそれがない。

——他人の方が厳しい。でも最新のプレイで、母親が登場するプレイをやられてますよね。

そう、あれは難しかったですね(笑)。あのプレイは母親に責められるというのがテーマではなかったんです。動機は、自分の嫌な設定を極めたいということでした。その中から母親というものが出てきたわけで。好きで望んだプレイではありません。

## 4 本当に嫌なこと

——タカくんのプレイの面白いところはそこで。普通はね、好きなことをやるもので、真に嫌なことをやりたい方は意外と珍しいと思うんですよ。プレイ中に嫌がるにしても、内心では喜んでるとか。それをすごくやりたい、楽しそう、って思ってやることの方が多いと思うんです。これが嫌いだからやってみよう、ってあんまり聞いたことがなくて。なので、どういうことなのかなって、できれば詳しくうかがいたいなと思ってるんですよ。

僕にも答えはない。サユリさんのお話で分かるのは、SMの原理に照らし合わせれば、やっぱり嫌なこと＝好きなことになってしまうんですよ。だって、そうじゃないと望まないでしょう？ だから、「嫌なこと」と僕は書きます。言葉としてそのように書きますけど、本当に嫌なのかどうかは僕自身分からない。

例えば、汚いことが嫌なんです。潔癖症を刺激するプレイが嫌なんです。ただサユリさん的には「でも好きなんじゃない？」となる。その所が僕にも分からない。でも嫌です。ブーツを舐めるとか。

——そのとき勃起していますか？

勃起していると思います。だからサユリさん的には結局好きなんじゃない、ってことになるんだけど。でもその時は本当にイヤだ。なので、サユリさんに聞いたんですよ。女王様のブーツは綺麗なもののなか？ と。概念としてね。

——舐める行為の意味ですね。

(サユリさん曰く) 舐める行為は、だいたいご褒美として行われている、と。それはうれしいこと、綺麗なものを舐めさせていただくってことだと。僕はそれは違うって言ったんです。あくまでも汚い。女王様がいくら崇高な存在でも、靴なんてものは汚い。それを舐めるのはイヤだと。でもイヤだイヤだと思うと、勃ってしまう。ただ、プレイ後はかなりダメージを受けてます。例えば、プレイで便器を舐めたとする。その後はひどく不快な状態になる。トイレの度に思い出すし、それは決して「快」ではない。そこで勃起もしないし、興奮もしないし、ただただ不快。だからわからないんです。プレイ中は多分勃起したんでしょう。でもそれはサユリさんがいるからですよ。女王様に、その行為、便器を舐めるという行為をさせられているから。でも行為自体には不快じゃない。

——それはやっぱりちょっと変わっていると思います。たぶんサユリさんが言ったように、ブーツを舐める場合はその行為自体が嬉しい人が多くて。ストーリー上はご褒美じゃない

こともありますよ。でも汚いという設定だったとしても、それを「喜び」として認識している人の方が、まあ数としては一般的ではあると思います。

あと、嫌だって要望メールに書く、嫌という言葉を使うことも結構珍しいと思うんですよね。「このプレイは大好きなのでやりたい」って表現のほうが一般的。「ブーツ舐めるのが大好きだからお願いします」と。実際は勃起し、好きなのかもしれないけど、それを嫌いなことって表現するところにやっぱり違いがあるんだと思いますね。

わからないです、結局ブーツを舐めるのが好きなのか嫌いなのか。分析してください(笑)。

——ちょっと気になっていることがあって。タカくんにとって、羞恥と屈辱を感じるのが大事なんですよね。ただ、羞恥と屈辱って、けっこう違うじゃないですか。これがタカくんの中で、どのように混ざっているのか？例えば、ブーツや便器を舐めるのは羞恥と屈辱どっちなのか。パッと見は屈辱の方が強そうですね。

屈辱でしょうね。じゃあ僕の言葉が間違っているのかな…

——いやいや、多分サユリさんに見られてるっていうのが大事なんですよね。

大事ですね。だから、一人でやって盛り上がることではない。

——あくまでも人にやらされている、そしてそれを見られている、そしてそれを嘲笑されている…

その条件がないとだめですね。そうですね。羞恥は女王様がいないと、成り立たない。

——恥ずかしいって思うわけですよね。何が恥ずかしいんですか？

良識に当てはめて、そういう人がいないからかな…

——舐めているのが異常だから恥ずかしい？

うん、ブーツを舐める人がいない。すくなくとも日常生活でブーツは舐めない。

——変わったことをするのが恥ずかしいんですか？人がやってないことだから？

そう。恥ずかしい。

——じゃ、ブーツじゃなくても、例えば、道端でいきなり踊ったりするのも OK ですか？

それも有り。恥ずかしいことならなんでもいいです。さらに言ってしまうと、SM で行われている「責め」自体にも興味がないです。

——だからこんなにいっぱい試してみるんですね<sup>6</sup>。

そう。だから鞭そのものに快樂はない。それは他の責めも全部そうです。嫌いなのは穴系。アナルも尿道も嫌いなんです。

——嫌いだったんですか！結構やりましたね。

めちゃくちゃ嫌いなんです。だって何も気持ちよくない。怖いし、やだ。サユリさんはそれを知っていてやるんです(笑)。サユリさんは、アナルで感じる人がいるんだっていうんです。

——それはいますよ。めっちゃいますよ。

それが僕には分からない。独りでそのような行為をして感じるんですよね？ すごい。僕にはできない…。

——そこには一番の要素が無いでもんね。羞恥と屈辱が。

無いですね。だから本当は鞭とかアナルとかいらんんですよ、僕を辱めたければ。

——例えば男性へのアナルプレイを羞恥プレイに使うときは、相手を女性化して、アナルを女性器に見立てて言葉責めしたりしますが、そういうストーリーもサユリさんとのプレイにありましたかね？それはどうでしたか？

ストーリーが付加されれば、まあ。だから、僕の場合、ストーリーと背景、そして女王様に無理矢理させられているという状況が揃っていればそれでいいんです。めちゃくちゃ鞭が好きとか、アナルが好きとか、そういうのはないです。なんでもいいんです(笑)。

---

<sup>6</sup> プレイ要望メールから推察するに、タカくんは、およそ SM クラブで行うことのできるプレイを手当たり次第行っていた。

——ひとつぐらいこれは好きというのはいないんですか？いわゆる SM プレイじゃなくても、サユリさんとやることだったら何でもいいんですけど。

……。

——ひとつもないんですか???! マジで!?

…あ！ひとつあります。鼻フック！<sup>7</sup> 鼻フック大好き。

何故なのかはわからない。なぜ豚なのか？別に豚にトラウマがあるわけでも、豚を蔑んでいるわけでもないんだけど。

うーん、やっぱり M 女さんからの影響ですね（雑誌やDVDでみた）。写真だけでも結構強烈ですよ。

——人の顔がぐしゃっとなって。無残な感じもしてね。

そうそう、しかも綺麗な女の人が。それにやっぱり感情移入してしまう。男が鼻フックしてもね…うん、やっぱり女性のほうが落差があっていい。女性になりたい。

——女性になって、自分の綺麗な顔がぐしゃっとなってる、っていう想像を…

想像するしかない。女性にはなれないんで。だからそのような設定に持っていく。

——女性の屈辱とか恥ずかしさっていろいろあると思うんですよ。例えば裸にするとか M 字開脚させるとか。でも、パイ投げといい、タカくんは顔面に結構意識がありますね。

そうですね、何ですかね。

——自分で崩してみたいとか思わず、自分が崩される側に？

なりたいですね。その願望はずっとあります。本当、子供の頃からずっと M 女さんの気持ちだったんです。女王様を知るまでは。

——なるほど、じゃあいじめられるには女性にならなきゃ！って思ったんですね。

---

<sup>7</sup> 鼻の穴を上向きに広げ、豚のような鼻として固定する器具。

そうそう。だから女性になりたかったんです。M女さんになりたい！っていう願望はすごかった。

——なるほどね。その場合、相手は男性でもいいんですか？

そのときの妄想は男性でしたね。でも女王様の存在を知った段階で、僕は男になった。今度はM男さんの気持ちになっちゃったんですね。ただなぜか、鼻フックとかいくつかの部分でM女さんの名残がある。それをずっと引きずっている。

——でもすごいですね。ふつう性別はすごく大きい要素で、変えられないことも多いと思うんですよ。でも変えたんですね。いじめられるために！

そうですね。いじめられるのが前提で、そっちが先にありました。性別よりも。

## 5 女王様との関係

——以前、女王様は真正がいいっておっしゃっていたと思うんですよね。真正だからこそ「プレイ」が成り立つのだと。今のお話で言えば、タカくん自体は何の要望もなく、ストーリーがあれば何されても良いっていう状態で、だからこそ、相手のサディスト性に期待をしているってことになるんですかね？具体的にやりたいプレイがあったら、それが上手な人だったら真性じゃなくてもいいという意識も発生するかなと思ったんですけど。何でもいからこそ、それをきちんとやるとなると、天性のものが必要ということでしょうか？

*(この質問に私は答えていませんが、答えは「はい」です。河原さんのおっしゃる通り、それが真正女王様を求める理由です)*

まず、基本的に「プレイ」という言葉が好きじゃありません。

——どうしてですか？

それこそ「遊び」だからだと思います。プレイというのはちょっと軽い感じがする。だからできるだけプレイという言葉は使わないようにしている。もっと真面目に神聖なものとして捉えたい。

ただ、結局、相手が本物かどうかは分からないんですよ。妙にリアリストなところがあ

りましてね。子供のころから、SM 雑誌とか、ビデオとか SM クラブの女王様は仕事でしていると思っていました。あくまでも仕事でしているだけで、本物ではないというか、演じていると。だから、雑誌に載っていたプライベートのパートナー募集というのが、僕にはよくわからなかった。この世の中に本当に、真正？ S 女なるものが存在するのかと。むしろメディアとか SM クラブで働いている女性の方が、演じているけどリアル。プライベートって、恋人同士で SM 行為をするんですか？ それとも奴隷として？

——両方いると思いますが、恋人同士の方が多そうですね。真に奴隷にするって結構難しい。相手にも仕事があったり。日常生活では恋人なんだけど、夜だけ上下関係ができるってのも多いような気がしますね。

僕の子供の頃の記憶では、雑誌とかに何かすごいことが書いてあって…。「奴隷契約書」を交わしたりとか。あんなの本当にいるのかなと。むしろ商業の S 女性の方がリアル。ただ、それで冷めなかったですね。相手が演じているからといって、それは本物じゃないから違うっていうふうにはならなかった。それはもうこっちも承知で、女王様が演じている方が別にいい。それでこっちが楽しめてその世界に入り込めるなら。サユリさんが本物かどうか、真正 S 女かどうかというのは、こっちがそう思えばいい。信じていけばいい。

——信じてはいたい？

信じてはいたい。サユリさんが自分は本物の S 女だと主張することは無いし、僕も自分は本物の M 男だと主張することはない。そんなことは言う必要がない。大事なことは信じて、そして世界観の共有と維持。1 回のプレイが終わっても、次回のプレイに繋げてそれをキープしたい。

——プレイとプレイの間の時間も、ひとつのまとまりに繋がっているんですね。お尋ねしたいのですが、プレイしているとき、おふたりは女教師だったり、中学 3 年生だったりする。このプレイ中は、一般的な上下関係が再現されているわけで、それは SM 関係ではないじゃないですか。外見的にはそれは SM なんだけど、登場人物の視点では、サユリさんは単なるすごく冷酷な女教師であり、タカくんはただのノーマルな中学生なわけですよね。このプレイ中には、女王様とか奴隷とかっていう、SM 的な観念は存在しませんよね。でもプレイが終わったら？ 初めて、S とか、M とかっていう世界が始まるっていう風に考えていいですか？

難しい。プレイ中は SM が存在しない。それはなぜ？

——プレイのストーリーは、現実世界で起きている設定になっていると思うんですよ。SでもMでもない、普通の人々が行なっている残酷な行為として。虐めてくる人が真のサディストかどうかというのは関係なくて、ただ残酷な人。そしてタカくんがマゾだったら、タカくんはそれを喜んでいるって事になっちゃって、その残酷性が消えちゃって、ストーリーが崩壊するじゃないですか。いやなことを強制されているっていう前提がなくなっちゃうじゃないですか。だからタカくんのプレイの中にはSMという観念は存在してはいけないんじゃないでしょうか。

自分が望んでいるとストーリーが崩壊するってことですね。

——そんな気がするんですけど、どうですか？ 相手も思いやりを持ってやってる可能性が発生しちゃうじゃないですか。

確かにストーリーの中のサユリ先生とタカくんは女王様と奴隷、サドマゾの関係ではありませんね。私が求めているのはSMではなく、いじめや虐待のようなものかもしれません。

(その他、このくだりで気づいたこと。河原さんをご存知の通り、プレイ時間中、ずっとSMしているわけではありません。当然休憩があります。長時間なら何回も。初めてサユリさんとプレイした時、休憩中、どうしたらいいか分からなかったです。私の中で女王様が休憩中、奴隷は正座みたいなイメージがあったので。しかし、サユリさんに尋ねたところ、そんなことはしなくていいということだったので、休憩中は二人で楽しくおしゃべりするという形が定着しました。そうすると、私はプレイ中のONとOFFを区別するため、ONの時は「サユリ先生(サユリ様)」、OFFの時は「サユリさん」と呼び分けるようにしました。しかし、何度もプレイを重ねていくと、このONとOFFが崩れる瞬間があります。サユリさんは意識していない(いや、意図的なのかな…?)と思いますが、ONの時にOFFになったり、OFFの時にONになったり。そんな瞬間、ストーリーの世界を超えてサユリさんに支配されている感じがします。)

ブーツの話に逆戻りするんですが。結局好きなのか？ 嫌いなのか？ 舐めたいのか？ でも本当に嫌な行為といえば、無視ですよ。無視、放置、裸を見せられる、プレイ拒否。でもそれはさすがに望んでません、僕はいやなことを望むと言葉では書きますが、ちょっとレベルが違う嫌なことがあるわけですね。でもそこが分からない。サユリさんがいうように、自分が自覚してないだけで、本当はブーツを舐めたいのかもしれない…ただ僕の中では、やっぱり嫌な事。うーん、そうするとS、M、真正…持ってはダメ。という結論になりますね。ストーリーを成立させるためには。

——ただ維持が大事って今おっしゃったじゃないですか。プレイの時は、あくまでもサユリさんとの関係性のひとつのステージで、プレイしない間の、会っていない期間も含めて考えるのであれば、プレイより、より大きいメタ的な視点が成立すると思うんで、そこには女王様とか、真正S女とか、そういうものが発生する余地があると思います。

プレイしてない時…大変ですね、毎日会えればいいのに(笑)。プレイという言葉…難しいですね。でもこれは壊すことができますよね。例えばサユリさん側からでも。この世界観を壊すことができる。でもそれはしない。まあそれが彼女の仕事だからと言ってしまえばそれまでなのですけど。

矛盾しますけど、愛はあると思うんです。サユリさん側に。だって僕の好きなこと/いやなことを叶えてくれるんだから。ただそこにSMの難しさがあって、僕は愛が欲しくない。サユリさん、プレイ中にすごく優しくする時があるんです。僕は厳しくしてほしいんですけど(笑)。でもね、それだって逆に考えれば、優しくされるのがイヤだから、サユリさん側としてはすごく優しくプレイしてやろうという考えだってあるわけですよ。

——そうですね。それは本当に勃たない方の嫌なことっぽいですが。どんな感じなんですか？ 優しいプレイというのは。

それこそ射精するときです。射精する時にサユリさんがエロくなったんです。でもそれでは無理だと(笑)もっと軽蔑してください、もっと罵倒してください、そうじゃないとイけません。エロいとダメなんです。

——射精は必要？

いや、なくてもいいです。最初のころはなかったです。

\* \*

ちょうどこの前、サユリさんとお話したんですが、会えない期間が辛いので、プレイとプレイの間に、なんか命令をくださいってお願いしたんです。そしたらこの前くれました。で、実行してきました。

——どんな命令だったんですか？ 差しつかえなければ。

鼻フック。乳首に洗濯バサミ。でドライブ&車内射精、その写真を撮って送れって。

——さすが。いきなりハードル高いですね。

なんか、びっくりしました。ただそんな感じですごくよくしてもらっています。

——その命令も優しいですよ。鼻フックつけてくれるから。

そう。確実にツボをわかってくれている。本当に優しいですよ。ただサユリさんは僕が少し変わっているっていうんですよ。それがわからない。ほかを知らないから。

——それはほとんどの人が分からないと思いますよ。商業女王様しかそれは知らないですよ。パーティーとかイベントとか行けば、まあ少しは分かりますけど、そんなに多数の人を知れるわけじゃないし。商業ベースみたいに「サンプル」が 1000 を軽く超えてくる人はそんなにいないんじゃないでしょうか。

そうですね。ひとりで悩むしかないんですよ。こればかりは。

——それは嫉妬心なのかもしれないですよ。ほかの M 男さんと自分比較して、サユリさんにとっての価値を計っているのかも。若い頃とは違った形で、何かが出ているかもしれないですね。

(サユリさんがほかの M 男さんとプレイすることに嫉妬はありませんが、ほかの M 男さんの環境に嫉妬することはあります。自分より頻繁にサユリさんとお会いできる経済力、SM で体に痕が残っても(肉体改造しても)問題のない環境、DVD や動画に出演しても(顔出ししても)問題のない環境などに嫉妬します。

また嫉妬に関して、サユリさんが面白いことを言っていました。私には●●(本名)さんとタカくんの二つの人格がある。この二つの人格が日常世界と SM 世界のバランスを取っている。それはとても健全でよい。しかし、日常世界の●●さんは SM 世界のタカくんに嫉妬している。これは正鵠を射た意見だと思います。)

## 6 すべてを放棄したい

——プレイ要望メールに、驚きが欲しいって書かれてましたね。

そう。全部お任せっていうのが好きです。ただ、最初にサユリさんから何してほしいか言われてたんで(プレイリクエストを書くことになった)。

本当は全部お任せしたいんです。プレイにこだわりがないから。サユリさんがしてくれることならなんでもいいので。でもせっかく要望するなら、じゃあ一通り、いわゆる SM で定番と呼ばれているものは、全部経験してみようと思って<sup>8</sup>。その後、何回目かのプレイで、お任せしていいですか？ と言ったんです。ストーリーだけは考えるので、具体的な責めの部分はお任せで、と<sup>9</sup>。今は、基本ストーリーだけ書いて、具体的な責めの部分はお任せしています。

——じゃあ、この要望メールは、サユリさんに言われて一生懸命考えたものなんですね。

そう。ただそれは無駄ではなかったです。その頃はサユリさんと初めてプレイした後で、気持ちがあ。バーッと燃え上がって。長年たまっていた SM への思いが爆発している状態だったんで。もうそれこそ、犬にもなりたいし、馬にもなりたい(笑)。一通りもう全部やってみたくって。

——やってみないとわかんないですもんね。好きか嫌いかも。

そう。その結果なんでもいいなって思ったんです(笑)。サユリさんにされることならなんでも。ただ、難しいところもある。なんでもいいって言われたから、お客さんに腕立て伏せさせたっていう話を聞いたんです。それはイヤだなーって。

——イヤなんですか？腕立て伏せって、お仕置き・懲罰っぽくないですか？晒し者にもなるし。

すごく構って欲しいタイプなんです。だから無視が苦しい。そういうプレイもしたことあるんですけど。

——それはイヤなことなわけですよ。それでも興奮しますか？勃起してましたか？

しなかったですね。例えば、乳首になんか付けますよね。その行為自体では何も起こらないです。そこにサユリさんがなんか言ってくれるからいいわけで、無視されているとダメなんです。

---

<sup>8</sup> タカくんは雑誌や DVD で、SM で行われる様々な行為の知識だけは持っていた。

<sup>9</sup> プレイの流れや設定をタカくんが決め、その流れにそって行う鞭やローソク、アナル責め等々個別の行為をどのように組み合わせるのかはサユリさんに任せる、の意。

—じゃあ放置プレイとかも？

やってみただけど、盛り上がりませんね。サユリさん、しつこく試してくるけど(笑)。それでも、今は非常にいいです。(放置プレイをされても)全部お任せの状態が。最初のころは要望を細かく書いたので、サユリさんはもちろんその通り、僕のリクエストを全部消化してくれました。ただやっぱりそれ以外の驚きが欲しかった。細かく書きちゃうと、どうしても予定調和になってしまうんですね。まずそれを打破したかった。だから、今はすごくいい状態です。今はもう何されるか分からない。どんな道具が出てくるかもわからない。それは格段に盛り上がりますね。予定調和なプレイよりも。すごくドキドキするし、それこそこちらの権利をひとつ放棄しているわけですから。

—同意もないということですね。

うん。だから、殴られようが、何されようがこちらにはなんの拒否権もない。だってリクエストなしと言ったでしょ？って。人間性を放棄するという、僕の一つの願望が叶えられている。

更にもう一段階上として、ストーリーまで放棄したい。

—本当に真に権利を移譲するんですね。完全奴隷プレイであろうとも絶対に前提とされているプレイのルールを一切斟酌していない。

人間性っていうか、お客さんとしての権利を放棄したい。もっと進めて、どんどん権利を移譲していきたい。現実的には無理だけど、極端な話、この日にプレイに来て、とか言われてみたい。こっちに仕事がある日でも全然関係なく、もう決めたからって。そこまっていければ最高なんだけど…理想はね、とにかくすべての権利を放棄したい。

—放棄すると、どのようなところがタカくんにとってうれしいんですか？

うーん。すごく無茶なことだよ。仕事の日休んで来いとか。

—プレイ内の奴隷じゃなくて、ほかの領域にはみ出た支配ですね。

はみ出ていますね。でも考えると興奮する。そういうのを望んでいるんでしょうね。サユリさんの言うことに何もかも従いたい。なんでなんだろう。なんでこんなに従いたいんだろう。

——そうしたがっている時のタカくんは人間ですか？

人間…ではないでしょうね、うん。

——人間以下の存在にもなりたいですか？

なりたいですね。これまた現実的には無理だけど。監禁されたいですね。すべてを奪われて。監禁って、夢かな(笑)。

——監禁には、こだわりがありますね。

これもね、幼少期に見たテレビの影響ですね。悪役の女性に正義の味方が拉致監禁されるという設定がありました。具体的にどんなストーリーかは忘れましたが。

——監禁の理由って必要ですか？あなたがこうだから監禁したというような。例えば、正義の味方が監禁されるなら、正義の味方っていう属性が重要ですよ。本人に何かいいところがあって、監禁されることによってむしろ自分の価値が証明されますね。監禁によって自分が高い所に行けるようなものじゃないですか。でもそうじゃなくて…

理不尽に監禁されたいですね。何の理由もなく突然、謎の軍団に(笑)。いや女王様に(笑)。

——複数女王様はダメなんですか？

複数はダメなんです。DVDを選ぶ時も、複数女王様モノは除外して、単独ものを選びます。

——マゾ側が複数なのはどうですか？

それもダメですね。一対一がいいです。女王様を独占したいので。複数女王様の場合、単純に、どちらに従えばいいかわからないんです。いったいどちらの奴隷なんだ、と。やっぱり特定の女王様に所有されたいですね。だから、A女王様の奴隷でありながらB女王様に貸し出される、これならいいです。

——タテ系統はどうですか？女王様と、その下に女のサーヴァントみたいなのがあって、間接的に女王様がサーヴァントに命令してタカくんをいじめる。

いけそうですね、それ。考えたことなかったけど。

## 7 存在の否定

「人間扱いされない」。これも僕の願望ですね。

——人間ってどんなイメージですか？

ちょっと質問の答えになってないかもしれませんが、生きていることを否定されたいですね。生まれてきたことを。

——生まれてこなければよい人間だと見なされたい？

そう。サユリさんから「何で生まれてきたの？何で生きているの？」など存在を否定される言葉責めをたくさんしてもらっています。それはとても興奮します。

——じゃあ、つまり価値の問題なんですね？

そう、存在を否定されたい。

——どうしてですか？

なんでなんでしょうね？ やっぱり子供のころ、心臓病だったっていうのは大きいですね。身体検査でバレるんですよ<sup>10</sup>。バレた時の、あの奇異なまなざし。この子は普通の人間じゃないんだって。それが快なのか不快なのかで言ったら当時は不快だったけど、それをSMで再現したいですね。

——でもそれはまだ奇異な目で、こいつは何か違う人間、あるいは劣った人間だって言われた段階ですね。一応まだ人間では？

そうですね。なんなんでしょう？ ここまで話してわかると思いますが、家庭的にも学校的にも問題はない。いじめられたとか屈辱を受けたとか、そういう経験もない。まあ看護婦さんにはちょっとあったけど、そこまでトラウマになるものはない。それなのになぜそれ

---

<sup>10</sup> タカくんには心臓に持病があり、現在はほぼ完治したものの、幼いころは20歳まで生きられないかもしれないと宣告されていたという。

を望むのか？

ただね、ここにも矛盾があるんです。やっぱり人間じゃないとダメなんですよね。だって人間じゃないと羞恥と屈辱を感じないのだから。もし完全に人間性を放棄してしまえば快楽を感じないわけで、それではSMが成立しない。

——人間でいたいのに人間扱いされないのはツボってありましたよね。そういう小説とかを読んだりとかしたんですか？ 例えば、食事を与えずに放置するみたいなのは、わりと人間性を剥奪されつつありますよね。こういうのはどこで思いつかれたんですか？

これも質問の答えになってないかもしれませんが、いじめられている女の子が羨ましかったですね。男子ではなく、女子。本当にかわいそうだし、ひどいことだと思うんですけど、その子のようになりたかった。クラスのみんなからいじめられたかった。

——その子、どんないじめにあっていたんですか？

当時の定番だったと思います。持ち物を隠すだの、机に落書きするだの。あとは無視。外見をイジるとか、黒板に嫌な事を書かれるとか、もあったな。そんなものに憧れないですよ、普通。でもそうなりたかった。いじめにあっていた当人は苦しんだらうし、そんなものに憧れてはいけないと思うんですけど。

——よく、プレイ中は奴隷になりたいけど、現実とは別だ、プレイ以外では人格を尊重されたい、という話があると思うんです。でも、現実にいじめられることがあったら、それはそれで結構タカくんは楽しめたかもしれない？

うーん。どうなんですかね？経験がないので。

——むしろ現実がそうだったら、SMクラブには来なかった？

そうかもしれませんね。

——そうなんと簡単に実現できてしまうかもしれません。いじめられっ子になればいい…

でもそれは多分、子供の頃だからですよ。子供の頃は、深く考えずにうらやましいなあって思ったけれど、今は…。ただ（クラスメートのような）観客は欲しいですね。誰かに見られたい。でも今のところサユリさんと二人きりの世界をキープしているし、それはたぶん無理なんだと思います。3Pというアイデアもありましたけど。

——女王様同士の関係が透けて見えると嫌だっておっしゃってましたね。

そうですね。だからできれば女王様ではなく、無関係の、一般の人に見られたい。恥ずかしい格好でお買い物に行ったり、(人に見られるプレイも) いろいろやっているんです。ただやっぱり犯したくないラインがある。私の立場もあるので。だからそこは夢とリスクを天秤にかけて慎重に判断しています。理想と現実。サユリさんとでも叶わないことはたくさんあります(笑)。

ただ願望は常にある。それこそ社会的なものを全部取っ払えるなら、監禁されたい。1年でも2年でも。

——監禁された時にサユリさんが出て行って放置されて、その間待つのは平気ですか？

大丈夫だと思います。ただ(監禁は) やっぱり無理。まずサユリさんがめんどくさがる(笑)。僕だって仕事も全部やめないといけないし。だからあくまでも夢なんです。

——まあ有給とってやるとかになりますね。2週間ぐらいとか。

2週間ぐらいじゃ足りないな(笑)。夢。なんか夢って言っちゃうと寂しいね。実現しえないものと考えると寂しくなる。

## 8 今後の展開

——タカくんのストーリーのオチはどうなるんですか？

いや、それは秘密です(笑)。すごいことにはなっていくのだけど。

——ストーリーは、今新しく母親が登場しましたがけど、これからも登場人物が増えたりするんですか？

今度は妹が登場します。前回も出てきましたけど。僕が妹役になっていじめられるんです。1回、お姉ちゃんにいじめられるっていうのもやってみましたけど、あれもよかったですね。

——何役も入れ替わったりするわけですね。助けに来た人も、結局ダメで、というストーリーですね。

そう。絶望ですよ。誰も助けてくれない。今度のやつは、タカくんの妹がタカくんと同じ高校に入学します。タカくんの変態動画が拡散されたことによって、妹は肩身の狭い思いをしています。そんな彼女が高校に入学すると、クラス担任はサユリ先生。そこで壮絶ないじめにあいます。今回はこの理不尽さが好き。お兄ちゃんのせいで、何の落ち度もない妹がいじめられるという。そのあと、サユリ先生の家連れて行かれて二人とも監禁。でもお兄ちゃんは助けてくれません。むしろサユリ先生に協力して妹を押さえつけたりする。このストーリーは妹の立場に立つともう最悪ですね。信じていたものに裏切られる。

——妹はお兄ちゃんと仲がいいんですね？

仲が良いし信じていたし、大好きだった。それなのに裏切られる。この設定も好き。

——どういうところがいいですか？

信じていた人、愛していた人に裏切られる絶望感ですね。これほどの痛手はない。でもその痛手を味わいたい。これもまた喜んでいるのか、傷ついているのか微妙ですけど。その議論はさておき、毎回心は傷ついています。それこそ何気ない言葉が頭に残ったりして。

——上手な罵倒が心をえぐってくるわけですね。

そう、えぐってくる。そこに不快を感じる。でもその不快が心地いい。

——泣きたいとも書かれていて。本当にいやで泣いているわけですね。絶望して。

そう。本当に泣きたい。だから便器を舐めるプレイとか本当にいやです。

——ただ便器を舐めるのはいやといっても、結局は命令されれば舐めることができるわけですよ。絶対に無理！ 頭ではやらなきゃと思っても体が絶対に拒否する、とかそういう状態ではないんですよ？本気でサユリさんの強制に抵抗してます？

本気で抵抗はしてないですね。そこは何か、もう受け入れてしまっている。どんなことをされても。

——それはなんでなんです？

その辺は考えたことないですね。そういえば、NG出したことないな。いや、なくはないのか、なくはないけど…

——まあ、本気で抵抗するよりはNGリクエストを選ぶわけですね。本気で抵抗するけど屈服するのが良いって人もいるわけですが。タカくんはそうではなくて、命令されたらやらなきゃいけない、やるっていうところにいつてる。もう逆らえないものとして、女性を設定しているんですかね。

うん、そう設定しているのでしょうかね。

——プレイの設定に年齢差があるので、大人のような、絶対的に立場が上の存在だから、最初から逆らうって選択肢がないのかなとか思ってたんですよ。でもどうも年齢差はそれほど重要ではないと。だんだん年齢が詰まってくるということなので、そうなるとどうなるんだろうと思って。

年齢差はどうでもいい…単純に、言葉通り「いじわる」されたい。「いじわる」な女性に「いじわる」なことをされたい。それだけです。

\* \*

男性とのセックス（を強制されるプレイ）は本当にやってみたい。本物の男性と。僕が女性役で。金銭面とかいろんな事情があってできないけど。

それになんといっても、サユリさんからの強制がないですからね。だけど僕の中ではそれが絶対条件なんですよ。僕がリクエストするのでは面白くない。こちらが事前に、「男の人ひとりお願いします」と言のではやっぱりダメですね。でもサユリさんは絶対そんなことしないので…

理想としてはね、待ち合わせ場所に行ったらいきなりそこに男性がいるとか(笑)。それで「彼とセックスしろ」なんて言われたら、最高なんだけど。

——残念ではあるけど、一面ではエスカレートを防いでくれているともいえますね。持続させてくれる。

そう思います。でもやっぱり妄想しちゃう。先ほどの話、サユリさんとその手下っていう設定、それもやってみたい。

——そうするとサユリさんとタカくんの距離がさらに遠くなって、お前なんか直接私が命

令なんかしないわよ、みたいになる。

あゝいいですね。なんかさっきから夢ばかり語っていますね、実現不可能な。

——でも SM って夢がメインなんじゃないかなと思っているんですよ。だってプレイを実際にするかしないかっていうのは、その人の状況によって、それこそお金があるとかないとか、SM クラブがあるとかないとかっていう状況に左右されますから。やってることを基準に考えない方がいいんじゃないかなって思っているんですよ。

そうですね、夢でいいと思います、その部分はストーリーで充分補われている。実際には誰にも見られてなくても、「ほら、恥ずかしい姿を見られてるわよ」って言われれば、その世界に入り込める。

——監禁で言えば、食事管理フェチって結構珍しいと思うんですよ。タカくんの場合は本当にお腹を空かせてプレイに臨むわけですよ。水分を制限したり。物理的な空腹や渇きに性的な魅力があるわけですよ。

ありますね。それこそ監禁の鉄則じゃないですか。食事と水分の管理は。

——けっこう監禁自体についても勉強されたんですか？

いや、してません(笑)。でもそんなイメージですよ、監禁って。

——生殺与奪の権を握られて。いうこと聞かないとご飯あげないぞっていわれたら従うしかない。

そうですね。プレイの時は前日から食べないで臨みます。僕のお腹がぐうぐう鳴っている中、サユリさんが美味しそうにバクバク食事するって感じです(笑)。最初は一回きりと思ったのですが、それがもうすっかり定着して毎回になっちゃいました。これはいいですね。すごく好き。

——タカくんはけっこう、肉体的苦痛もいい派なんだと思いますよ。だってこれ具体的苦痛じゃないですか。のど湧いたとか、お腹すいたとか、羞恥と屈辱じゃないんじゃないですかね。

そうですね。休憩管理されるのも好きです。タバコを管理されるのもつらかったですね。

僕はヘビースモーカーなので、8時間吸わないのはほんとにきつい。でも禁煙できないんです(笑)。もしサユリさんがひとこと、次回のプレイまでタバコ吸うなって命令してくれれば禁煙できるんじゃないかと思うんだけど(笑)

(初めて本格的に食事管理と休憩管理をしてから数回は一切タバコを吸いませんでしたが、最近はまだ吸うようになりました。サユリさんからタバコを吸えないストレスがプレイに影響するなら無理する必要はないと言われて、それもそうかなと思いました。タバコの中毒性は食欲など他の欲望とはまた別次元にあるように感じます。)

——タバコ管理されるのは、裸を見させられるのは違って、性的に良いものなんですか？

うん。僕の望むものが与えられない。

——あ、そっか。裸は望まないものを見せてくるわけですね。でもタバコは欲しいから。欲しいものを取り上げられる。

食べ物、飲み物、休憩…何もかも全部奪われて管理されたい！それが理想ですね。だからそれを作りたい。

——すべてを移譲している時って、移譲した相手には愛がなくて、本当に冷酷な設定なんですよね。ということは、そのままご飯が永久に与えられないっていう可能性もあるわけですね。そのまま死ぬかも、と思ったりもするわけですか？ 思えますか？

プレイなのでね。さすがにそこまではいかない。やっぱり有給とって2週間ぐらいやってみないとダメかな(笑)。

でもこういうのが面白かったですね。最初の食事管理の時、僕は勝手に、プレイの最後には何か食べさせてくれるだろうと思っていたんですよ。踏んづけたお菓子とか。そしたら本当に何も食べさせてくれなかった(笑)。これがさっきから言っている驚きですね。こちらの期待を裏切ってくる。そういうのはすごく面白いし、興奮する。サユリさんはそれが抜群にうまい。こちらが想像していることの裏を常にかいてくる。それが技術なのか、経験なのか、天性のS性なのかは、わからないけど。

その時は結局、自分のおしっこを飲みました。サユリさんではなく。そんなに喉が渴いてるんならって。その後、浣腸されて、その浣腸液も飲みました。そんな感じですよ。僕が甘かったんです。サユリさんは優しいから、きっと何か食べさせてくれると思ったんですけど。そういう予想外の展開、裏切りはすごくドキドキするし、嬉しいですね。

——何も食べれない苦しさが限界にきたりはしないんですか？苦痛がうれしさを上回るようなことは。

まあ一日、二日なんでね。もうちょっと前から僕が絶食していれば違うんでしょうけど…そんなに苦しくはないですね。

——本当に苦しくなったら、サユリさんが恨めしいとか、これはきつすぎる、限界を超えている、みたいになる可能性はあるんですかね？絶望したり。

どうなんですかね…今のところはないですね。そこまでされてみたいけど。ただそうなっても恨むかな？喜ぶんじゃないかな(笑)。

——繰り返しになりますが、そのまま死んじゃったりすることは考えますか？本当にサユリさんが冷酷で一切食べ物を与えずに、タカくんを殺してしまうといった。

ファンタジーとしてはありますね、ただ、そこはずるいのかな、生きていたい。ただそれは生きることには希望があるからではなく、死んだらその時点で快樂が終わってしまうから。生きた状態でできるだけ長く、苦しみを持続させたい。

——死ぬことと生まれてこないほうが良いっていうのは、結構違うと思うんですけど、完全に違うというわけでもない気がするんですよ。人間の価値を否定されることと、お前は生まれてくる必要のない人間だっていうのは、じゃあ死ねばっていうことになったりもする。

生きている価値のない人間が死のうが生きようが、どんな目に合おうが、周りはどうでもいいですよ。そのような存在になりたい。

——誰の目にも留まらず、誰の感情も満たさず？

いや、そうではなく、自分の情け無い姿を見られたいんです。自分の情けない姿を見られて破滅したい。例えば、裸で歩かされるとか(笑)。もちろんそんなことはしないですけど。でも願望はある。

——何が破滅するんですか？

人生が。

——タカくんの人生とは何でしょうか？

人生っていうか…。考えてみると、結局僕は SM という行為を隠して生きているわけですよ。それを暴露したい。

——暴露が破滅？

破滅ではなく、願望。ただ、そうできないものを背負って生きている。それこそ、付き合っていた彼女にも言えなかったし。サユリさんが、SM という世界を職業にしていることは本当に素晴らしいことだと思う。僕も SM の世界で生きていきたい。だから僕の中では SM ビデオとかに出ている人がスターだという感覚がある。女王様側もそうですけど、M 男性側にもそれがある。オープンにできるなんて、本当にすごいと思う。心から尊敬するし、憧れる。僕はやっぱり人生を偽っているんでしょうね。それが嫌。だからそういう願望がある。

——それは、暴露したいということでしょうか。それとも本当の自分を出したいということでしょうか？

本当の自分を出したい。…いや、もっと俗な、SM 的な話だな。暴露して、そういう状況になりたいだけかも。

——まあ、プレイと現実世界との接点、というか違いは大事ですよ。プレイ以外のところでも、そういう願望が出ちゃうわけですね。

そうですね。ビデオは本当に羨ましい。だって何十年経っても、いまだに晒し者にされているわけだから。ビデオという世界の中で、永遠に。だからそれはすごく憧れます。

\* \*

サユリさんとの関係がいつか終わったら、多分僕は SM やめますね。じゃあ別の女王様で、という気にはなれない。あとは思い出で生きてきます(笑)

——消去法で選んだにもかかわらず、今は SM そのものよりもサユリさんの存在の方が大きいと<sup>11</sup>。

---

<sup>11</sup> タカくんは、DVD 等に出演している有名女王様とプレイがしたいと思い、そのような女王様のう

そうですね。彼女はね、ほんとすごいんだ。

——どういうところがすごいと思いますか？

こちらの欲望を察知する能力がすごい。ストーリーを書いて送って、実際にお会いして、プレイ前にお話しますよね。趣味とか、幼いころの思い出とか。そういうのを確実に記憶して、その日のプレイに組み込んでくる。その判断力と実行力がすごい。その回でできなくても、次回に必ず繋げてくる。

——なるほど。ただ、ちょっと失礼な言い方ですけど、まだ技術論に聞こえるんですよ。サユリさんのテクニックがすごい、という話に。でもそれだと、もっとプレイが上手な女王様もいるかもしれないと思いませんか？

そこは分からない。比較対象がないから。

——そうですね。たとえばサユリさんと二度とプレイができなくなった後に…

他の女王様は嫌ですね。

——SM プレイの魅力以外のものがサユリさんに…

人間的な魅力は当然感じています。確かに SM だけに限れば別の女性でもいいはずですよ。別の女性でもいいんだけど…

——それは恋とか愛とかいったものとどういう関係にあるんでしょうか？

恋してるし、愛しています。若い頃なら、それで狂ったかもしれないけど(笑)。サユリさんが好きです。ただ彼女に SM という要素がなかったら恋したかな。やっぱり女王様だから好きなんじゃないかな。

——何に恋してるんでしょう？

何でしょうね？一回だけ SM なしてデートしたことがあるんです。それはそれで楽しかったんですけど、その時思ったんです。やっぱり SM がしたいなど(笑)。デートだけじゃだ

---

ち、当時最も予約しやすく通いやすい女王様であったサユリさんを消去法で選んだという。

めだなど。だから性があるんでしょうね。愛とか恋とかいった精神的なものにやっぱり肉体的なものが絡んでいる。彼女への想いは。

——初体験の時は、それが完全に分かれたんですよね。それがSMを通じて、サユリさんとのプレイでまた一緒になったってということでしょうか？

うん、一緒になり得る存在を見つけた、そういうことになりますね。サユリさんが相手でも（膣ペニス性交は）多分できないけど。

——相手に触れなくても挿入しなくても、裸を見なくても、愛したり、恋したりできてるわけですね。

そうですね。でもプレイはしたい(笑)。プレイって言葉は嫌だけど。

——なにかいい別の言葉ありますか。調教はどうですか。

調教はいいですね。サユリさんとのやり取りではよく使っています。今後は、ストーリーを放棄できれば面白いですね。こだわりがありましてね。衣裳を放棄、ストーリーを放棄、人間性を放棄…（を目指したい欲望がある）。

——どんどん無敵のようになっていきますね。これがなければだめだというものがなくなって、上位互換され弱点がなくなっていく感じ(笑)。何を目指してるんですか？

裏、逆、そこに面白さがある。どうなっていきたいのかは分からない。ただ同じプレイは二度としたくないという気持ちがある。やっている行為は同じでも、設定なりシチュエーションは変えたい。だからストーリーも発展させたい。

——それってサユリさんとプレイをし続けるための反応だったりしますか？ どういうことかという、同じプレイをすると飽きちゃうじゃないですか。そうすると、違う女王様で、という発想が出てくる。同じプレイばかりやっている方は、女王様をくるくる変えていくことがあるんですよね。サユリさんに飽きたくないから、いろんなことをやりたいのかなってちょっと思ったんですけど。

それもあるかもしれませんね。毎回同じことだと飽きますもんね。

——愛があっても飽きます。

うん。関係を維持するためなのかも。ただ、やっぱり根本にあるのは、この物語を完結させたいという思いです。昔書いた小説の通りに。

いつか終わると思います。いつかどちらかの事情で、この関係が終わってしまう。サユリさんが引退するかもしれないし。僕だって何が起こるか分からない。そういうのを覚悟して、お付き合いしています。だから一回一回のプレイをすごく大事にしています。これが最後かな…次は無いかも…という気持ちで。悔いは残したくない。だから毎回真剣です。

【付記】本稿は、科研費・若手研究（21K17987）およびサントリー文化財団研究助成「学問の未来を拓く」2022年度年度採択課題「SM 研究：支配と暴力をめぐる欲望の歴史・文化・実践」による研究成果の一部である。

※プライバシー保護、および本文で十分に語られているため、タカくんのプロフィールは省略しました。

---

河原 梓水（かわはら・あずみ）

1983年生まれ。福岡女子大学国際文理学部准教授。SMを中心に、モノ化、性の同意、性風俗雑誌、戦後思想、表現規制史などを研究。単著に『SM の思想史 戦後日本における支配と暴力をめぐる夢と欲望』（青弓社 2024）。ak043025@fwu.ac.jp